

# 「クイズ長良川」

問1. 河口堰ができて何年？

- ① 3年—7人 ②13年—19人 ③23年—204人

問2. 長良川の鮎はどこで産卵するの？

- ① 郡上～関—183人 ②岐阜～羽島—34人 ③伊勢湾—19人

問3. 導水路は徳山ダムの水を長良川のどこへ流す？

- ① 関市—26人 ②岐阜市—132人 ③羽島市—66人

問4. 導水路の建設費はいくら？

- ① 90億円—8人 ②490億円—63人 ③890億円—168人

正解 問1-③ 問2-② 問3-② 問4-③

参考に次のページをご覧ください

# よみがえれ長良川

河口堰23年・開門調査の実現を！

「宝の川だった長良川は、魚の棲まないおぞい川になってしまいました。清流長良川は昔のことです。」長良川とともに生きてきた川漁師の悲痛な言葉です。

長良川の河口をふさぐ河口堰のゲートが閉鎖されて23年。海とのつながりを断たれ、長良川の環境は大きく変わってしまいました。河口堰は、塩水と真水が入り混じる生き物にとって大切な汽水域を遮断し、広大なヨシ原の90%以上が消滅。そこに生きていた多くの生き物たちは棲み家と命を奪われました。日本有数のヤマトシジミ魚は大きな打撃を受けています。

河口堰は海と川を行き来する生き物の大きな障害にもなっています。長良川の象徴でもあるアユやサツキマスの漁獲高も激減。岐阜市はレッドリストで長良川の天然遡上アユを準絶滅危惧種に登録しました。水質悪化は伊勢湾にも大きな影響を与えています。

河口堰は四日市や名古屋臨海工業地帯の工業用水のために計画されましたが、現在まで一滴も使われていません。僅かに16%が知多半島などの住民の上水道に使われているだけです。建設費や維持管理費は名古屋市民や愛知、三重、岐阜県民が税金や水道料金として支払ってきました。

生物多様性締約国会議(COP10)の開催地愛知県は大村知事の公約である「長良川河口堰の開門調査」に基づき、2011年より長良川河口堰を検証する委員会を設置。検討を重ねた結果、開門による塩害の危惧の声を受け、農業用水が長良川から取水しない時期(10月～3月)の開門調査が提案されています。この時期は鮎の降下・遡上の大事な時期であり、開門調査実現の期待が高まっています。

2018年3月、熊本県の荒瀬ダムで日本初の大規模ダム撤去が完了しました。2012年の撤去工事開始から6年。川の流れがよみがえり、河口域の環境も目に見えて回復し、流域では清流を生かした地域再生の動きが始まっています。「川は流れてこそよみがえる」地元の人の声です。

お隣の韓国のプサン(釜山)市でも、環境改善のためにナクトンガン(洛東江)河口堰を2025年に完全開門するための準備が進んでいます。

長良川・伊勢湾の再生のために一日も早く、国と愛知、岐阜、三重の関係各県が連携をとり、開門調査を開始することを切望します。

2018年5月

よみがえれ長良川実行委員会



## 長良川的环境・生態系を壊す公共事業

### 1 ながらがわかこうぜき 長良川河口堰



総延長166kmの本流にダムがない長良川に、河口から約5.4km上流(三重県桑名市)に建設された全長661mの可動堰。1995年に本格運用を開始し、毎秒22.5m<sup>3</sup>の水を利用する予定でしたが、最大の目的であった工業用水は一滴も使われていません(使う目途もありません)。流れを遮断された長良川の環境悪化は甚大で、堰の開門を求める世論が高まっています。

### (徳山ダム導水路)

### 2 木曾川水系連絡導水路計画

徳山ダムの水を毎秒20m<sup>3</sup>、揖斐川上流から木曾川まで約43kmの地下トンネルで運ぶ計画です。総事業費890億円。その水の一部を、河川環境改善と利水(名古屋市工業用水)の名目で、長良川にも鵜飼場のすぐ上流で放流することになっています。しかしダムの冷たい水を流すことには、市民から不安と反対の声が上がっています。また、この地域では水需要は減り続けています。現在、事業は「凍結」、国の検証事業の一つとなっていますが、事業継続の動きは止まっています。

### 3 うちがたに 内ヶ谷ダム建設

長良川の支流である亀尾島川の源流部に建設されています。総事業費420億円。治水目的と言われていますが、県民に理解されないまま2023年度完成を目指して事業が進んでいます。本体工事は2016年から始まりました。長良川源流の大切な自然豊かな森林と溪流が消えようとしています。

Free  
the  
Nagara  
River